

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉



2012年、明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い致します。



相談支援体制と中核地域生活支援センター

社会福祉法人ワナーホーム
理事長 寺田 一郎

大震災は、原発を事実上崩壊させたが、それは同時に地域社会をも崩壊させた。これまでの地域住民の生活の場、仕事の場、地域のつながりが一時に消滅してしまったのである。

今、復旧・復興が進む中で、新しい地域作りが始まろうとしている。災害時に特別な配慮が必要な人たちへの対応が十分に検討された、災害に強い町作りであってほしいと思う。それは住民が主体となる地域の仕組み作りであり、当事者主体の地域作りである。東日本大震災は、このような地域作りの出発点でもある。

地域作りという点において、千葉県での中核地域生活支援センターは、その最先端を担ってきた。多問題家族や福祉制度の網にかからないような事例を対象とすることは、まさに中核センターの面目躍如たるものがある。そういう中で、市町村へ中核センター機能を移すという方向性が示された。これは、既に実施された委託料の見直しと機軸を同じにするものであり中核センターの存続に係る問題として、きちんと受け止める必要がある。障害者、高齢者、児童等全ての生活者を対象とする「困った時の相談相手」「実際に動いてくれる人」をどう配置するかという、問題提起が改めてされたのである。

一方で、中核センターでは、障害者からの相談が6～7割を占めているにもかかわらず、障害者自立支援法との関係が整理されて来なかった。中核センターの市町村への機能移転という大きな課題は、中核センターの役割を見直す好機でもある。①中核センターを含めた地域の相談支援体制をどうするのか、②その場合、「基幹相談支援センター」（つなぎ法）や「地域包括支援センター」（介護保険法）との役割分担はどう考えるのか、③市町村との役割分担をどう整理するのか、等々について率直に議論する時が来ている。その際、何を守るのか、という視点だけは明確にしておきたいものである。

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

八千代地域生活支援センター 施設長 福田 弘子氏

精神保健の分野に入ったのは'81年新卒で精神科病院の医療相談室に採用されてからです。精神保健の分野はこの頃から入院中心から地域生活へと流れが変わってきた時期でした。家族会などが中心に作業所ができ、病院では開放処遇・共同住居やデイケアを行なっているところが先駆的でした。法律の改正で精神疾患の患者から精神の障害者という福祉の対象となり、やっと'06年3障害が同じ福祉サービスが受けられる土俵に上がることができました。この年の6月、八千代地域生活支援センターが開所し、私も病院から地域に移行できました。先日、体調を崩した利用者さんが数年ぶりに入院され、「病院は変わったね。一般の病院のようだった。」と話されたことに精神科病院の歴史を感じました。

八千代地域生活支援センターは精神保健福祉法の施設から障害者自立支援法の地域活動支援センターⅠ型に移行し、現在、習志野保健所圏域（八千代・習志野・鎌ヶ谷）を中心に活動範囲としています。三障害の方々が対象ですが、精神科に受診している方が殆どです。住宅街の一角にありますので、当初から誰もが利用できる「街のほっとステーション」になれるよう地域の方にも広く門を開いています。庭の一角を近所の方の畑にしたり、子ども達と生花と一緒に教えてもらったりなど、色々な方々との交流の中で自然に障害者への理解につながればと思っています。

センターの活動は相談とフリースペース（プログラム含む）で、利用の仕方は様々です。例えば、日課として、障害の改善のために主治医に勧められて、家事の息抜きに、困った時の電話、月に一度みんななどの食事を楽しみに、プログラムを選んで参加、半年ぶりに～3年ぶりに利用、仕事の帰りに、夕方何となく誰かと話したくて…などなど、それぞれが生活の中で必要な時に利用しています。精神の障害（症状の管理の難しさ）を抱えて生活することの大変さをセンターの活動を通して改めて感じています。また、利用者の方々の生活者としてのたくましさや、フリースペースでの当事者だからこそ分かち合える優しさに教えられることが多くあります。開所から6回目になるセンターのクリスマス会の申込みが、当初の倍位になりました。働くことだけでなく、自分のペースで利用できる居場所の必要性も感じています。

年々、市の活動等にも関わる機会が増えてきています。生活を支える選択肢が増え、安心できるひとり一人にあった当たり前の生活ができるよう、当事者の思いを伝えていかなければいけないと思っています。

【取材圏域：なかまネット（習志野圏域）】



社会福祉法人 栄寿会 八千代地域生活支援センター
〒276-0045
八千代市大和田 322-18
TEL：047-481-3555
FAX：047-485-3553



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第3回 千葉県障害者グループホーム大会 「グループホームの充実を目指す」～実践・アイデアを共有しよう～

〔内容〕

オープニングセレモニー

第1部 【基調講演】「グループホーム等の質とは？」

講師 室津 滋樹 氏（障害のある人と援助者で作る日本グループホーム学会事務局長）

第2部 【シンポジウム】「グループホーム等における生活の質の向上について」

シンポジスト 齋藤 航二 氏（社会福祉法人 大久保学園 大久保学園支援課長）

押元 和宏 氏（特定非営利活動法人 タなぎ グループホームとみかわ世話人）

アドバイザー 室津 滋樹 氏（基調講演者）

コーディネーター 荒原 寛治 氏（市原圏域障害者グループホーム等支援ワーカー）

〔日時〕平成24年2月7日（火）12:30～15:30（開場11:30）

〔会場〕千葉市文化センター 3階アートホール 〔参加費〕無料 〔定員〕500名

〔申込み〕お名前、ご住所、電話・FAX番号、メールアドレス、所属、手話通訳や車椅子用席等、必要な支援がございましたらご記入の上、下記お問い合わせ先にFAXにてお申込みください。 ※平成24年1月31日（火）締切り（定員になり次第、締切り）

〔問い合わせ先〕千葉県健康福祉部 障害福祉課 地域生活支援室（担当：池宮城）

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/grouphome/grouphome.html>

FAX：043-222-4133 TEL:043-223-2335

平成23年度 千葉県地域福祉フォーラムシンポジウム ～東日本大震災への取り組みから地域のあり方を考える～

〔内容〕◆午前の部

【基調講演】「大震災から地域が学んだこと」～いま、なぜ地域福祉が重要なのか～

＜講師＞小林 雅彦 氏（国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授、千葉県地域福祉フォーラム座長）

【被災地からの報告】「震災への対応と復興に向けた取り組みについて」

＜報告者＞今野 大 氏（福島県相馬市社会福祉協議会事務局次長兼生活復興ボランティアセンター長）

【被災地支援活動レポート】「岩手県陸前高田市での復興支援活動について」

＜報告者＞鶴ヶ谷 昌彦 氏（市川市社会福祉協議会 事務局次長）

◆午後の部

【シンポジウム】「地域で安全・安心に暮らしていくために」～大震災への取り組みから、いま地域に何が必要かを考える～

＜シンポジスト＞

①「民生委員による震災時の対応と、震災後の取り組みについて」高橋 君枝 氏（習志野市民生委員児童委員協議会 会長）

②「介護現場での震災時の対応と、地域における福祉施設の役割について」

木下 知子 氏（印西市本埜地域包括支援センター 管理責任者）

③「小域地域福祉フォーラムによる災害・防災への取り組みについて」三枝 貴治 氏（一宮町東浪見地区社会福祉協議会 会長）

④「学校における震災時の対応と、学校と地域の連携について」毛利 恒彦 氏（旭市立飯岡小学校 校長）

⑤「震災への取り組みと、地域における企業の役割について」水島 重光 氏（生活協同組合ちばコープ 減災推進担当）

＜コーディネーター＞ 小林 雅彦氏（基調講演者）

〔日時〕平成24年2月12日（日）午前10時～午後3時45分（受付開始：午前9時30分）〔参加費〕無料

〔会場〕千葉県経営者会館 6階大ホール 〔定員〕250名（先着順、定員を超過し参加困難な場合のみ連絡あり）

〔申込み〕所属機関・団体、役職名、氏名、電話番号、昼食希望の有無を下記お問い合わせ先にFAXにてお知らせください。

（※昼食については1食600円・お茶付で業者が販売しますので、当日業者から直接購入してください。

あらかじめ数を把握させていただくための希望確認となります。） ※平成24年2月6日（月）締切り

〔問い合わせ先〕千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部 地域福祉推進班（千葉県地域福祉フォーラム事務局）

TEL：043-245-1102 FAX：043-244-5201（担当：会田・神崎・川上）

君津ふくしネット（君津圏域）



「君津ふくしネット」は、木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市を担当するセンターです。この君津圏域4市の人口は約33万人で、千葉県の中西部に位置し、木更津市から延びる東京湾アクアラインは木更津市～川崎市を15分で結んで首都圏へのアクセスを快適にしています。

東京湾に面した西部地域は、工業が盛んで、新日本製鐵君津、東電富津火力発電所、住友化学袖ヶ浦工場、富士石油袖ヶ浦製油所などの大規模工場が立ち並んでいます。

対照的に東部は、山野や田園が広がるのどかな景色が広がっています。豊かな緑を利用したゴルフ場、マザー牧場（富津市）や東京ドイツ村（袖ヶ浦市）といった遊園地があり、週末は他県ナンバーの自動車が、にぎやかに行き交います。

当センターは、JR木更津駅西口前のアクアビル（旧そごう）8階に事務所を置き、コーディネーター3名、相談員1名、グループホーム等支援ワーカー2名の計6名体制で、24時間365日「だれでも」「何でも」「いつでも」ご相談をお受けしています。

ご相談の内容は、障害に関するものが一番多く、次いで高齢者や児童に関するものが続きます。すべてのご相談を合わせると、毎月600件あまりになります。

すぐに解決するご相談もありますが、時間のかかるもの、中には解決への糸口が見えないものさえあり、相談支援の困難を実感しておりますが、行政や地域のサービス機関と連携し、なんとか知恵を絞り、たくさん汗をかきながら、住人の方々がより良い生活を送れるよう活動していきたいと思えます。

（記：コーディネーター 川澄 耕一郎）



中核地域生活支援センター 君津ふくしネット

〒 292-0831

千葉県木更津市富士見1-2-1 アクア木更津8階

Tel 0438-25-1151・1152

Fax 0438-25-1153

E-mail nozominomon1151@muse.ocn.ne.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：香取ネットワーク（香取圏域）香取市北1-11-18 TEL:0478-50-2800 FAX:0478-50-2881

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：丸山）までお願いします。